

説明資料の変更比較表

(1) ロボット介護機器開発・標準化事業【終了時評価】

資料2「終了時評価の審議経過」【P v】

変更前	第2回評価検討会(20**年*月*日)
変更後	第2回評価検討会(2022年2月9日～2月15日)(書面審議)
変更内容	誤植を修正(20**年*月*日→(2022年2月9日～2月15日)(書面審議))

資料2「第4章 評価ワーキンググループの所見」【P51】

変更前	終了時評価(20**年度)
変更後	終了時評価(2021年度)
変更内容	誤植を修正(20**年度→2021年)

資料2「第4章 評価ワーキンググループの所見」【P51】

変更前	事前評価(2019年度)
変更後	事前評価(2017年度)
変更内容	誤植を修正(2019年度→2017年)

補足資料1「1. 事業の概要」【実施形態】【P2】

変更前	AMED (委託)
変更後	AMED (補助)
変更内容	誤植を修正(委託→補助)

補足資料1「5-2. 本事業の内容」【(2) 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターにおける検証の成果】  
「②作成マニュアル」【P12】

変更前	全面支持型移乗支援機器導入運用マニュアル
変更後	前面支持型移乗支援機器導入運用マニュアル
変更内容	誤植を修正(全面→前面)

(2) 規制の精緻化に向けたデジタル技術の開発事業【終了時評価】

資料3「F-1. 研究開発の内容」【(2) 構成【技術開発事業】】【P72】

変更前	株式会社島津製作所が可搬型、東京製綱株式会社が常設型を想定した非接触型の高精度センサーを開発し、実験用エレベーターを使用して実証した。
変更後	株式会社島津製作所及び東京製綱株式会社は常設型を想定した非接触型の高精度センサーを開発し、実験用エレベーターを使用して実証した。
変更内容	誤植を修正(株式会社島津製作所が可搬型、東京製綱株式会社が→株式会社島津製作所及び東京製綱株式会社は)

補足資料2「1. 事業の概要」【P2】

変更前	事前評価:2019 年度、終了時評価:2022 年度
変更後	事前評価:2019 年度、終了時評価:2021 年度
変更内容	誤植を修正(2022 年→2021 年)

(4)高効率な資源循環システムを構築するためのリサイクル技術の研究開発事業(低温焙焼によるリサイクル製錬原料の高品質化技術の開発)【終了時評価】

資料5「8. 今後の研究開発の方向等に関する提言」【P62】

変更前	加熱水蒸気の効果確認や基板の燃料化などの技術開発の継続が期待されるが、研究者の選任に偏り生じないように研究体制に留意しつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら進められることが重要である。また、社会実装の障壁等を未然に把握することで対策立案にも意識しつつ、研究開発にライフサイクル思想・システム思想が活用されることも期待する。
変更後	過熱水蒸気の効果確認や基板の燃料化などの技術開発の継続が期待されるが、研究者の選任に偏り生じないように研究体制に留意しつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら進められることが重要である。また、社会実装の障壁等を未然に把握することで対策立案にも意識しつつ、研究開発にライフサイクル思想・システム思想が活用されることも期待する。
変更内容	誤植を修正(加熱→過熱)

資料5「8. 今後の研究開発の方向等に関する提言」【P62】

変更前	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構を通じて、事業参加者が継続している加熱水蒸気の効果確認等に関する技術開発の進捗のフォローアップを行いつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら、パイロット試験の実施について検討する。 (略)
-----	--

変更後	<p>独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構を通じて、事業参加者が継続している<u>過熱水蒸気</u>の効果確認等に関する技術開発の進捗のフォローアップを行いつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら、パイロット試験の実施について検討する。</p> <p>(略)</p>
変更内容	誤植を修正(加熱→過熱)

資料5「8. 今後の研究開発の方向等に関する提言」「各委員の提言」「B 委員」【P62】

変更前	<p>リサイクル技術開発は、資源循環やカーボンニュートラルの観点から最も重要なテーマである。実用化のためには、更なる廃棄物ミニマム化や回収金属の回収率アップに取り組む必要がある。また、<u>加熱水蒸気</u>の効果確認や基板の燃料化についても技術開発の継続を期待する。</p>
変更後	<p>リサイクル技術開発は、資源循環やカーボンニュートラルの観点から最も重要なテーマである。実用化のためには、更なる廃棄物ミニマム化や回収金属の回収率アップに取り組む必要がある。また、<u>過熱水蒸気</u>の効果確認や基板の燃料化についても技術開発の継続を期待する。</p>
変更内容	誤植を修正(加熱→過熱)

補足資料4「5. 提言及び対処方針」「今後の研究開発の方向等に関する提言」【P29】

変更前	<p>・<u>加熱水蒸気</u>の効果確認や基板の燃料化などの技術開発の継続が期待されるが、研究者の選任に偏り生じないよう研究体制に留意しつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら進められることが重要である。</p>
変更後	<p>・<u>過熱水蒸気</u>の効果確認や基板の燃料化などの技術開発の継続が期待されるが、研究者の選任に偏り生じないよう研究体制に留意しつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら進められることが重要である。</p>
変更内容	誤植を修正(加熱→過熱)

補足資料4「5. 提言及び対処方針」「対処方針」【P29】

変更前	<p>・独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構を通じて、事業参加者が継続している<u>加熱水蒸気</u>の効果確認等に関する技術開発の進捗のフォローアップを行いつつ、金銀等の希少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら、パイロット試験の実施について検討する。</p>
変更後	<p>・独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構を通じて、事業参加者が継続している<u>過熱水蒸気</u>の効果確認等に関する技術開発の進捗のフォローアップを行いつつ、金銀等の希</p>

	少金属の回収率や海外への技術供与の可能性にも配慮しながら、パイロット試験の実施について検討する。
変更内容	誤植を修正(加熱→過熱)